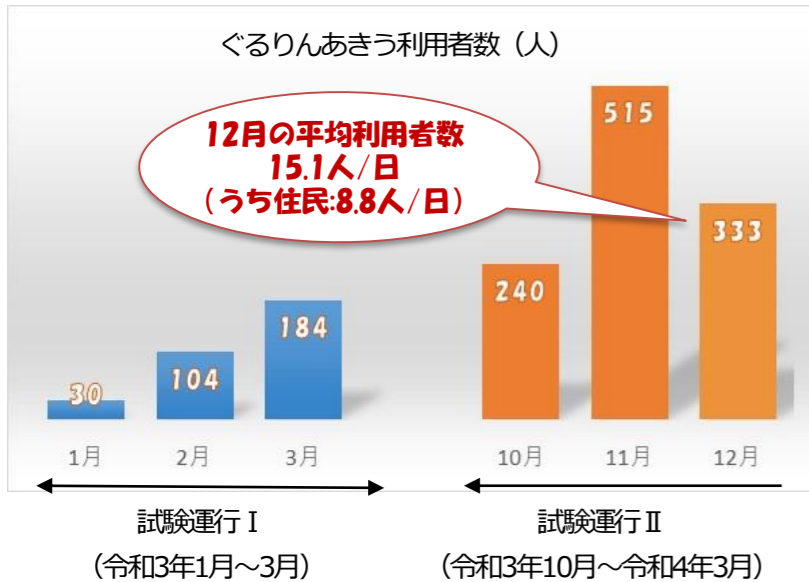




考える会通信 22号

ぐるりんあきうのご予約は、(有)秋保交通(ぐるりんあきうセンター)まで
予約の電話:022-304-9855 ※はじめに「ぐるりん号の予約です」とお伝えください。



◆地域住民の応援が必要です！
 紅葉シーズンが落ち着いた12月は、前月と比べ利用者数は減少したものの、1日あたり約15人の方にご利用いただきました。しかしながら、依然として利用者の半数は観光客であり、地域住民の利用促進が今後の課題となっております。(詳細は見開き参照)
 持続的な運行を確保するうえでは、地域住民の方からの応援が必要不可欠です。各町内会での会合や地域のイベント等の時間を少々お借りして、ぐるりんの利用説明会を実施することも可能ですので、是非ご検討ください。

高齢者は寒くなると、家にひきこもりがちになります。天気の良い日は「ぐるりんあきう」を利用して買物や食事をしたり、秋保の冬景色を見に散歩したりすれば、ストレスの解消やボケ防止、健康増進に効果があると思っています。
 「ぐるりんあきう」は、秋保地区内なら自宅から目的地、目的地から自宅まで移動することが出来ます。また、車輪はコロナ感染対策を施しており、安心して利用できますので、ぜひ、多くの方のご利用をお願いいたします。
 皆様から運行内容についての改善点などがございましたら、遠慮なくご意見ください。
 秋保地区の皆様にとって利用しやすい「ぐるりんあきう」を目指してまいりますので、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

私は現在、枇杷原町内会の会長、そして湯元地区連合町内会の会長を務めております。また、昨年より故湯目氏から引き継ぎ、考える会の副会長を務めております。よろしくお願いたします。
 近年、各地域で高齢化が進み、高齢者の日常生活に必要な移動手段の確保という課題が顕在化してきておりますが、秋保には「ぐるりんあきう」があります。

高齢者にやさしい「ぐるりんあきう」
 秋保地区の交通を考える会
 副会長 佐藤淳

★「考える会通信」は、町内会の協力をいただき、秋保町内にお住まいの皆様へ配布しています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



ぐるりんあきう 利用者インタビュー



「ぐるりん号のファンです！」
 野中町内会 荒若 しのぶさん



野中に住む荒若しのぶさんは、只今5人の子育て真っ最中。息子さん(2歳、5歳)としのぶさんで朝7時にぐるりん号に乗り込み、湯元保育所で下車します。子供達を見送りながら、湯向から路線バスに乗り換え、茂庭の職場に出勤しています。
 「土日運行が可能になれば土曜出勤にも利用できるし、娘(中学1年生)も土日に部活ができます」
 最近は運転に自信がなくなっているというおばあちゃんも「考える会通信」を大切に保管しており、そろそろ利用したいと仰っているとのこと。
 「秋保総合支所の方から紹介して頂き利用するようになりました。青野社長と親しくなると、ぐるりん号をより好きになりました！」
 荒若家と共にぐるりんあきうも未来に羽ばたいていきます。
 (インタビュー：秋保地区の交通を考える会 及川)

↑ぐるりん利用の様子

ぐるりんあきうは多くの企業・団体に支えられています！

 秋保温泉旅館組合 伝承千年の宿佐助、ホテルニュー水戸屋、佐藤屋旅館、秋保グランドホテル、篝火の湯緑水亭、奥州秋保温泉蘭亭、ホテル瑞鳳、秋保リゾートホテルクレセント、神ヶ根温泉、ホテルきよ水	レクリエーション市民農園 及川農園 電話：080-1190-5382
内科・婦人科 仙台クリニック 電話：022-398-2201	ぐるりんあきうを応援します 相沢米穀店 電話：022-399-2504
 AKIU Villa9e 秋保ヴィレッジ 電話：022-302-6081	わたしたちも応援しています！ 秋保大滝不動尊 西光寺 電話：022-399-2127
ぐるりんあきうを応援します (有)秋保交通 電話：022-304-9855	秋保の情報はこちらにお尋下さい。 秋保・里センター 電話：022-304-9151 秋保温泉郷観光案内所 電話：022-398-2323
秋保町全域運行おめでとう！ 手作りの山里 石神ゆめの森 電話：022-399-2283 (石神案内)	技と暮らしが風土にとけあう処 秋保工芸の里 電話：022-398-2673 (玩愚庵内)
 アキウ舎 AKIUSA SENDAI 電話：022-724-7767	

■発行：秋保地区の交通を考える会 会長 及川 純一 電話 022-399-2133
 ■支援機関：仙台市 都市整備局 地域交通推進課 電話 022-214-8495

公共交通を利用するメリットを紹介します

近年、高齢者による自動車事故が社会問題化しており、運転免許の返納も話題になっています。高齢化が進む中、移動手段の確保は重大な課題です。ここでは、バスや電車などの公共交通を利用することでどのようなメリットがあるのかをご紹介します。テーマは「クルマのCO₂排出量(エコな暮らしとは?)」です。

理想的なエコライフとは?!クルマを利用することで排出されるCO₂について、考えてみましょう。



地球温暖化の原因となる温室効果ガス、その代表格であるCO₂(二酸化炭素)を減らそうと、みんなが色々な活動(エコ活動)を展開しています。

[エコ活動の例]

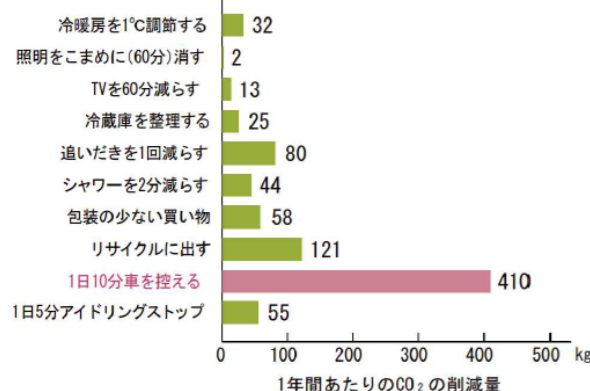
- 電気(照明やテレビ等)のスイッチをこまめに消す
- エコバッグでレジ袋削減
- 冷暖房の温度調節 等々



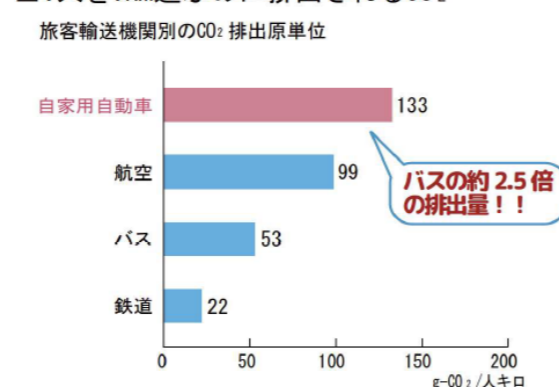
テレビを消したり、家電を使わないようにすれば、CO₂は減らせます。いろいろなものをリサイクルするようになれば、燃やすごみの量も減るし、それらをつくる時に出るCO₂も減らせます。職場では「ウォームビズ」や「クールビズ」で冷暖房の温度を調整しているのも、身近な「エコ活動」です。

しかし、1日当たりわずか10分間クルマの利用を減らすだけで、それらのエコ活動の何十倍も、効率的にCO₂を減らせるのです。

■身近なCO₂削減方法と削減量 ※1



■1人を1km運ぶのに排出されるCO₂ ※2



バスの約2.5倍の排出量!!

1日10分間クルマの利用を減らすことで、1年間で削減されるCO₂は、リサイクルの3~4倍、冷暖房の調整の約1.2倍、1時間消灯することに比べれば200倍にもなります。削減する量を杉の木で換算すれば、1年間で約30本分の杉の木が吸収するCO₂と同じ量となります。※3 また、1人を1Km運ぶのに排出されるCO₂は、自家用自動車はバスの約2.5倍になります。

エコに関心のある皆さん、まずは、どういう手段で日々、移動しているのかを考えてみてください。「ちょっとそこまで」のクルマ利用を減らすことや、公共交通を上手に利用すれば、効果的なエコ活動となるのです。

※1: 日本モビリティマネジメント会議 HP
 ※2: 「運輸・交通と環境(2017)」公益財団法人エコロジー・モビリティ財団
 ※3: 環境省/林野庁「地球温暖化対策のための緑の吸収源対策」

来年度の運行計画について話し合いました

1月19日に、今年最初の考える会代表者会議を開催しました。会議では、実施中の試験運行の利用状況や来年度の試験運行の内容について話し合いました。

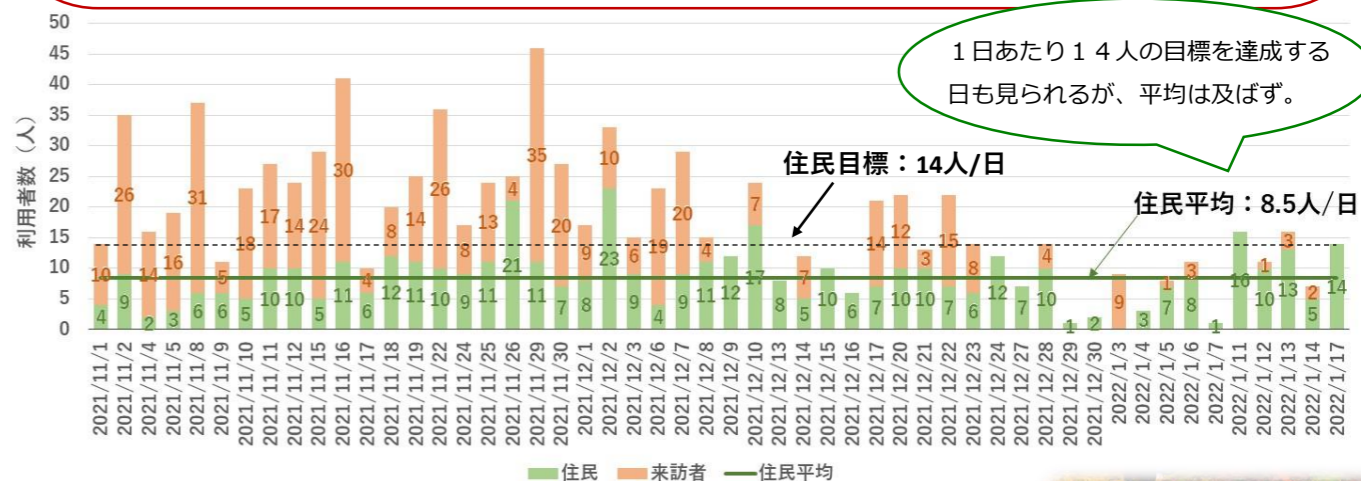
今回は、今後の広報活動について話し合います。

会議で出された意見の一部を紹介します。

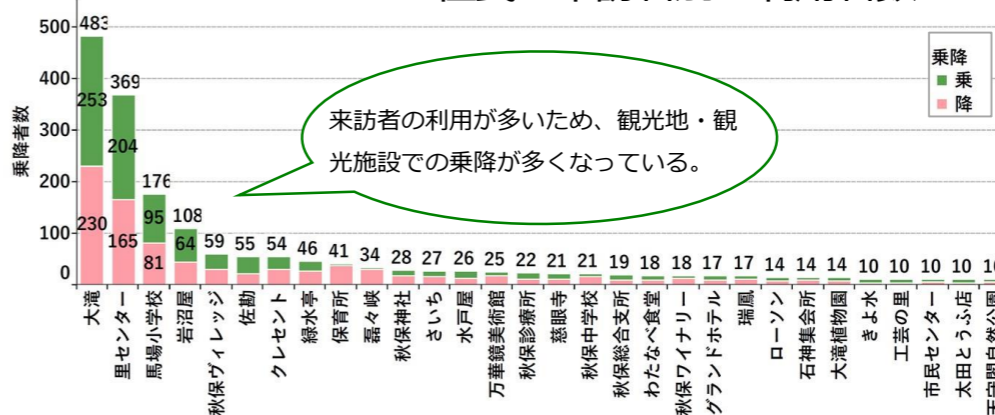
秋保町外に通学する学生の保護者より、始発のバスに乗せるためにぐるりんを6時から運行開始できないかという相談があった。子供の送迎だけで1日あたり3時間以上かかり、自身の仕事に支障が出ているため、是非ぐるりんを活用したいとのこと。

秋保町内から愛子方面へ移動するには秋保・里センターで乗り換える必要があるため、スムーズに乗り換えられるような運行時刻等の工夫を検討する。また、バスの遅れ等の運行状況を互いにリアルタイムに共有をする等、シームレスな乗り換えの検討が今後必要である。

令和4年4月1日から予約受付の電話番号を新しい専用番号に変更する予定だが、周知期間も考慮して、1カ月前には番号を確定した方が良い。また、利用者が混同しないよう、現在配布しているリーフレットは回収し、新しいリーフレットはデザインを刷新する必要がある。



住民・来訪者別の利用者数



乗降地施設別の利用者数

